
IS 第一の男性操縦者:瑞樹

雪香菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS 第一の男性操縦者：瑞樹

【Nコード】

N4598R

【作者名】

雪香菜

【あらすじ】

女性にしか使えないマルチフォームスーツ【Infiniteインフィニット・ストラトスStratos】。通称、アイエス【IS】。今まで男女平等だったこの世の中に女性にしか使えない”モノ”が出来たことで、女性は偉いという発想が広まり、すっかり女尊男卑の世界になってしまった。そこへ、現れた一人の男。その名は織斑一夏。彼は世界で唯一ISを使える男として、世界中にその名を知らせた。

しかし、実はすでにその前にISを使える男が出現していた。彼は

現在の女尊男卑からは考えられない、《世界最強》の名を持っている。
た。そして、彼はIS学園に入学する

第0話：プロローグ

女性にしか使えないマルチフォームスーツ【インフィニットInfinites
・ストラトス^{アイエス}tratos】。通弥、【アイエスIS】。今まで男女平等だったこの世の
中に女性にしか使えない”モノ”が出来たことで、女性は偉いとい
う発想が広まり、すっかり女尊男卑の世界になってしまった。

そこへ、現れた一人の男。その名は織斑一夏。彼は世界で唯一IS
を使える男として、世界中にその名を知らせた。

しかし、実はすでにその前にISを使える男が出現していた。彼は
現在の女尊男卑からは考えられない、《世界最強》の名を持ってい
た。今まで秘密事項になっていた彼が、もう一人の男性IS操縦者・
織斑一夏の出現により公表されることになった。

そして、彼はIS学園に入学する

第1話：IS学園に忍び寄る影？

窓一つ存在しない部屋。

そこは、地下室のようなコンクリートの壁、びっしりと研究所のようない機会が並んでいた。

そこに、いくつものコンピューター画面の前に座る、一人の少年がいた。

「瑞樹、みずき」

「何、束」たはね

「これ見て」

重そうな鉄の戸が開き、一人の女性が現れた。
彼女は少年に新聞を渡した。

「【ISを動かす少年現れる！？】、か……」

「そう。それに、この子」

女性は新聞に載っているとある少年の写真を指差した。
少年はこれを見て、目を見開く。

「織斑一夏！？」おりむらこみか

「ええ。まさか彼がこうなるとはねえ……」

「あいつ……まあ、仲間ができただけでも嬉しいかな」

「彼は、IS学園に入ったそうよ。…それでね、」

「俺にも入れっただろ？」

「ごめんなさい、まだ研究途中なのに」

「いいさ、どうせ近々行くことになっていただろうし」

「手続きはこっちでしておくわ、あそこには千冬^{ちふゆ}もいるし」

「じゃあ俺は今日はもう帰る。明日の準備もしたいし」

「あら、よく分かったわね明日出発だって」

「東はこういうこと大体ぎりぎりと言ってくるからな」

「ふふ、じゃあよろしくね」

そう言っただけで東は部屋から出て行った。

残された瑞樹は、全てのコンピューターや機械に厳重なロックをかけ始めた。

【ACCESS TO SUPER POWERED LOCK】
(最強ロックへアクセス中)

【ACCESS ACCEPTED】(アクセス完了)

【SUPER POWERED LOCK ON】(最強ロックオン)

「これでよし」

瑞樹はコンピューターに電源を切り、部屋から出て、更に厳重な口
ツクをかけ、去って行った。

第2話：到着

『昨夜、篠ノ之束博士しのかのが重大な発表をなさいました！

【実は織斑一夏は初の男性IS操縦者ではなく、もう一人その前よりISが使える男が出現している】

とのことですよ！

彼の名前は織斑瑞樹！

なんと一夏君の弟なのです！

その瑞樹君は明日よりIS学園に入学するそうです』

「束もう発表したのかよ…仕事早すぎ」

それでまた姿くらましちまうんだから不思議だよな。

俺は今、テレビに映っている時の人。

つまり、俺は織斑瑞樹。

織斑一夏の実の弟で、数年前より行方をくらましていた。

「随分とつくのが早いな」

そうそう、俺は間違えて一本前の便に乗ってしまった…って、この声は…

「千冬姉！？」

「久しぶりだな、瑞樹。行方くらましたと思ったたらこんな有名人になりおって」

千冬姉は微笑んでいた。

久しぶりに見たな…千冬姉の笑顔。

「千冬姉は何？ドイツから消えたかと思ったら学校の先生？」

「ふん、おまえと一夏の面倒を見にわざわざ来てやったんだ」

「どうだか」

お互いに笑う。

…こんなことができたのも、あの時以来か……

「車を用意してある、行くぞ」

そついうと、千冬姉はすたすたと歩いて行ってしまった。

…相変わらず、のようだな。

これからが楽しみだ。

一夏side

「ねえ、聞いた聞いた？」

「え、何何？」

「織斑くん他にもISを使える男子がいたんだって！」

「あ、それ知ってる！今ニュースですごいことになってるあれですよ？」

「織斑くんの弟なんだってね！」

「すごいよね、兄弟そろってIS使えるって」

「千冬様もそうだから、やっぱり血の繋がりが関係してるのかな？」

「しかもIS学園に入学するんでしょ？」

「え、でも弟だから年齢違うんじゃない？」

「それがね、双子の弟なんだって」

「じゃあ、このクラスにも来る可能性があるってゆうこと!？」

俺はいま非常に不機嫌である。

別に人気下がったからではない。

あいつについてだ。

…織斑瑞樹。

俺の实の双子の弟であり、正反対の性格をもった相手。

他人には似ていると言われるが。

瑞樹とは昔からどうしても仲が悪く、いつも喧嘩ばかりしていた。

……でも、あいつが消えたときは、不覚にも泣きそうな気分になった。

何か、自分の片割れがいなくなってしまったような気がした。

「はあ……」

あいつにあつたらぶん殴ってやろつ。

うん、それがいい。

第3話：転入生

「はいはい、皆さん静かにしてください」

とある教師の呼び掛けにより、IS学園1年1組の教室は静かになった。

教師の名は山田真耶。やまだ まや

スーツを着ておらず、背が小さいため見た目は生徒たちとあまり変わらない。

彼女はこの1年1組の副担任である。

「今日は、転校生がいます」

彼女のこの一言で教室がざわめきだした。

「え、もしかしてあの子!？」

「やっぱり1年1組には兄の織斑くんがいるからかな？」

「男子が2人に増える!やったあ」

「静かに!!!」

騒ぎ出した生徒たちを見ておろおろする山田を救ったのが

「織斑先生!」

いつの間にか教室に入ってきていた千冬だった。

千冬は生徒たちを静かにした後、扉の方に向かった。

「何をしている、織斑。早く入ってこい」

「はい」

そう言って入ってきたのが

「今日からこの学園に通うことになる、織斑瑞樹くんです」

女子たちは、目を見張った。

瑞樹 side

俺が1年1組きょうしつに入った瞬間、女子たちは固まった。

まあ、しょうがないだろう。

俺と一夏はどちらがどちらか見分けがつかないほどそっくりだから。
オレたち違うとしたら性格、あと『アレ』かな。

一卵性なんだからしょうがないだろ。

俺だっあんなヤンて一夏と同じ顔なんていやだよ。

「千冬先生、自己紹介してもいいですか？」

「下の名前で呼ぶな。……勝手にやっている」

「勝手にって……まあいいですけど。え、知ってるかと思いますが、織斑一夏の双子の弟の織斑瑞樹です。これからよろしく願います」

そして適当におじぎ。
いつもこんな感じだ。

「聞きたいことも沢山あるだろうが、それは休み時間にしてくれ。
・
・ではHRホームルームを始めるぞ、織斑の席はあそこの空いている席だ」

俺が席に着くと、HRが始まった。

なんだかなあゝ・・・

痛いんだよな、うん。

そうだよ、女子の視線がだよ。

そんなに見てると俺、一夏に嫉妬されちゃうんだけど。

そんな俺の気持ちも関係無しに穴が開くほど見てくる女子たち。

・・・今までご愁傷様、一夏。

少しだけ、俺の片割れいちかに同情したHRであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4598r/>

IS 第一の男性操縦者:瑞樹

2011年10月8日20時50分発行